

第 16 回議会報告会報告書

令和 3 年 1 月
広聴広報特別委員会

はじめに

本市議会における議会報告会は、議会基本条例に基づき初めて実施した平成24年8月を皮切りに、今回で第16回目の開催となった。

今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”は新型コロナウイルス感染症対策として、議会報告はYouTubeでの動画配信、意見交換はWeb会議システム「Zoom」を活用し、「コロナ過での新しい生活」をメインテーマに、市民の声を伺った。

また、参加者の参加時間帯を考慮し、昼の部と夜の部の2回に分けて実施した。

那須塩原市議会報告会実施要綱第11条の規定により、議会報告会報告書を本書のとおり提出する。

目次

はじめに	1
1 第16回議会報告会実施概要	2
2 主な意見及び要望.....	3
3 第16回議会報告会のまとめと考察	12
4 資料	15

1 第16回議会報告会実施概要

昼の部

開催日時	令和2年11月20日（金）午後2時00分～午後4時00分		
参加人数	20人（男性8人 女性12人）		
担当議員	齊藤 誠之【委員長】	山形 紀弘【副委員長】	益子 丈弘
	星 宏子	小島 耕一	中里 康寛
	平山 武	鈴木 伸彦	星野 健二
	齋藤 寿一	森本 彰伸	佐藤 一則
意見交換の手法	ワールドカフェ方式		
意見交換テーマ	コロナ禍での新しい生活について		

夜の部

開催日時	令和2年11月20日（金）午後6時30分～午後8時30分		
参加人数	9人（男性5人 女性4人）		
担当議員	齊藤 誠之【委員長】	山形 紀弘【副委員長】	益子 丈弘
	平山 武	星 宏子	中里 康寛
	齋藤 寿一	森本 彰伸	星野 健二
意見交換の手法	ワールドカフェ方式		
意見交換テーマ	コロナ禍での新しい生活について		

参加者数について

○合計 29名となった。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
開催年月	H24.8	H25.11	H26.5	H26.11	H27.5	H27.11	H28.5	H28.11	H29.11	H30.5
参加者数	220	93	89	91	97	60	70	94	62	66

	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回
開催年月	H30.11	R元.6	R元.11	R2.2	R2.7.17~9.30	R2.11
参加者数	78	23	70	152	※72	29

※アンケート回答数

2 主な意見及び要望

テーマ「コロナ禍における新しい生活」

○新型コロナウイルス感染症対策

- ・感染症対策をどこまで行えばいいか不安だった。
- ・生活様式が変わったので初めは戸惑った。
- ・基本的な手洗い、うがい、アルコール消毒や身だしなみの大切さを感じた。
- ・公共交通の本数が少なく、乗車人数が多い時は本数、車両を増やせないか。
- ・公共交通を充実して、密になることを避けて欲しい。密が不安。
- ・自分の体調に気を遣うようになった。自分で消毒液を購入し、外出した際に、椅子やテーブルに座るときに自分で拭くようになった。
- ・商売をしているが、お客様に会う時などに自分で消毒するようになった。そのせいで経費が増えた。
- ・電車で通学しているが、ソーシャルディスタンスが取れてないように思う。
- ・人との会話でソーシャルディスタンスに慣れなかった。
- ・母と温泉に行っていたが、温泉でのソーシャルディスタンスをイメージすることができなかった。感染しないように気をつけるために温泉に行けなかった。最近やっと行き始めた。
- ・在宅ケアネットワーク栃木で活動しているが、コロナの終息が見えないので、一人一人がコロナとどのように付き合っていくか考える必要がある。それには、学びや情報の共有が大切だと思う。今年は、手洗いをしっかりしているのでインフルエンザが少ない。今後も一人一人がリスク回避をしながら生活していくことが大切だと思う。
- ・自分が感染しないように、手洗いうがいなどを徹底し、自己防衛することが大切である。
- ・行事の時に手指の消毒を行う。検温。使った物の消毒。
- ・部活（サッカー部）で選手の体温を全部記録している。試合の時は2週間分の体温を本部に報告している。コミュニケーションは電話などで補っている。
- ・実習が多いが班に分かれて行っている。10人に区切って行っている。

- ・外での活動でも 2m 以上の距離を保ち、マスクを着用して行っている。
おしゃべりも自粛している。自宅で高齢者の居場所づくりをしているが、
パーティションを購入して行っている。
- ・消毒液を持ち歩いている。
- ・経済とコロナ対策の両立をテレビでやっているが何が正解かわからない
ので、一人一人が努力対策するべき。どんな意識を持つかが大切だと思う。
- ・買い物をする時、前もって買うものを決めておき、滞在時間を短くする。
- ・なるべく周りの建造物には触らない。自分が触ったところはアルコール消
毒をするよう配慮している。
- ・コロナ禍で、今後感染が広がってきた際に、どのようにすれば良いのかわ
からず不安を感じる。飲食をする時や学校生活での注意点を明確にして
おけば、いざこざがなくなるのではないか。
- ・過剰に反応せず、個人が守るべきことを守り、自己防衛をしていく。
- ・慣れてしまい、マスクをするのを忘れてしまう。緩み、慣れを感じる。

○仕事

- ・バイトで、人手が足りなくなった。
- ・母が、自粛期間中に仕事が少なくなり家賃を払うのが大変だった。
- ・就職出来るよう補助してほしい。
- ・仕事上、外回りをしているので他人にうつしてしまったり、自分も感染
してしまうのではないかと、常に気を使っている。

○子育て・学校生活（小学校・中学校）

- ・子どもが休校時の対応が大変だった。
- ・姉妹都市事業、マイチャレンジ事業が中止になり残念だった。
- ・先生方が何とか学校行事を出来る様にしてくれて良かった。
- ・休校明けでの不登校が心配。学校に戻らなくてもいい、他の選択肢も
必要だと思う。
- ・不登校になる子を持つ親の相談出来る体制が少ない。不登校になる子を
持つ当事者を皆でサポートする必要があると思う。
- ・学習の遅れを心配する親の声を聞く体制の充実が必要だと思う。
- ・関谷小での月曜朝ごはんプロジェクトが素晴らしいと思う。

- ・小学生、中学生、高校生は、今学校生活において思い出を作ることが少ないため、大人達が知恵を出してカバーしてあげたい。
- ・子ども食堂など子供達の居場所を作ってあげたいと思っている人達が、どうしたら良いかわからないと言う相談を受けている。
- ・子供の虐待についてなど、子育てが、より良いものになる手段が可視化されていない。

○高校生活、進学、就職

- ・東京遠足が中止になったことが悲しかった。(3年)
- ・運動会で接触する競技が中止。ゲストもない。物足りなく思った。
- ・修学旅行が中止となり、近場のレジャー施設に行くことになったが、悲しく思った。
- ・高校生生活を前向きに過ごすために、制限される中で登山などいろいろなできる機会となった。
- ・市の合唱祭が中止となった。市民合唱祭がなくなり、地域の人との交流の場がなくなってしまったのが残念
- ・趣味の幅が広がった。ギター。
- ・長い間友人と会えなかったので、久しぶりに友人に会えてとても嬉しかった。親と色々話をするようになった。仕事の事など。
- ・昼休みや日常が変わった。
- ・部活の大会もなくなった。
- ・学校生活が制限されて思い出作りが影響を受けた。
- ・時間がありすぎて宿題を後回しにしてしまった。
- ・オンライン学習会を行えば良いのではないかな？
- ・学校の行事ができなかったが、黒磯高校ではどのようにすればできるかをみんなで考えた。
- ・生徒会で話し合い、マスク着用するなどして文化祭を開催した。
- ・コロナでよかったことは、休みが長かったこと。
- ・学校行事無くなる中で、球技大会がいつものように開催できたこと。みんなストレス発散になったと思う。
- ・ストレス解消法は、音楽を聴いたり、絵を描いたり。
- ・ストレス解消法は、映画鑑賞や友達との電話
- ・ストレス解消法は、インターネットでカラオケ。

- ・ストレス解消法は、バトミントン部の活動も自粛のため筋トレ。
- ・一日の出来事(良いこと、悪いこと)を、家族に話す。良く聞いてくれる。
- ・陸上部に入っているため、人が少ない朝に走っている。
- ・ビデオ通話を使って友達と勉強した。
- ・進学先が県外で、Zoomでの授業になると思うので少し不安。
- ・就職先を見つける時に見学できるところが少なくて不安だった。
- ・大学進学するが、オープンキャンパスに行けなくて残念だった。
- ・進路相談で先生と対面で面談ができなかったのが不安だった。
- ・学校が始まって、コロナの数が増えて居るまた休校になるのが心配。就職や勉強が心配でも、感染が広がるのも心配
- ・休校が終わって、前を向いて一人でご飯、マスク手洗いが当たり前になって生活が変わってそれが当たり前になっていることに不安を感じる。食事時の友達とのコミュニケーションが取れない。
- ・コロナが増えて就職試験で、求人が減って居るのが不安。今年も減っているのに来年はもっと厳しくなるのではないかと不安。
- ・家では、あまり県外に外出しないようにしている。東京に行くのも心配。ライブにも行きたかったが親に許してもらえなかった。
- ・体育祭ができたことは楽しかった。
- ・マスクをずっとつけて勉強やスポーツをするのは辛かった。集中しにくい、肌も荒れる。
- ・就職する時の求人に心配がある。企業の倒産などもある。
- ・県内の就職を考えている。高校で学んだ事を生かしたい。
- ・来春、東京の大学に進学するが、Zoomでの授業が心配。
- ・人が多いところには行かないとか手洗いを徹底することなどを先生から伝えられている。
- ・課題が多く出て、そのテストを授業を通さず自分で勉強しなくてはならないことは、皆が不安に思っていた。
- ・スキンシップが激しいほうなので、なるべく友達に近づかないように意識をしている。
- ・体育の授業の後、手洗いをあまりしなかったが、コロナ禍では洗うように心掛けています。特にボールを使う授業の時は。
- ・マスクを付けていると、時々息苦しくなるが、人が居ない時に外すようにしている。

- ・休校中に、趣味の楽器を練習出来たこと。(文化祭で皆の前で演奏できた)
- ・休校中は時間が出来たので、家族と話す時間が増えた。
- ・休校中に兄と一緒に料理を作ることができ、楽しかった。
- ・オンラインの重要性が高まり、前よりも情報社会という点で重要視されているように思える。オンラインによって、離れている人との距離感が縮まるという点では、良かったと思う。

○高齢者の生活

- ・傾聴ボランティアが出来なくなった。2月から活動休止。施設の傾聴に行っていたので、施設の高齢者が困っているのではないか。
- ・高齢者の居場所づくりのため、月2回昼食をしていた。(13人くらい1時間30分会食する)できるだけ外出しないように気を付けている。
- ・今年8月に高校生との集いを企画していたが、コロナ禍で中止した。来年は対策してやりたい。
- ・行政が発信力をつけるのが大切だと思う。高齢者が情報を得られるようになるとうい。
- ・コロナ禍で見守り活動、訪問が出来ない。
- ・介護保険の相談が増えている。
- ・高齢者の筋力低下や鬱の増加が懸念される。
- ・認知症の方々の相談が多くなってきている。図書館が情報収集の場所となり、認知症の方々が、安心出来る憩いの場所としての図書館の活用を。
- ・自粛期間中は、高齢者との情報共有が難しかった。(情報量の格差)
- ・このコロナ禍において、ヘルパーさんや訪問看護師の方々の仕事が大変になってきている。(例として人数制限がかかっている)

○日常生活

- ・飲み会ができなくて残念。
- ・趣味はマラソンだが、大会が中止になり残念。
- ・趣味のゴルフができず残念。
- ・家にいる時間が増えて趣味の時間を持てた。
- ・家族との時間を持てコミュニケーションが取れた。
- ・今までやりたくても出来ないことに挑戦できた。
- ・家にいる時間が増えて食費、光熱費が増えて経済的負担になった。
- ・閉じこもり傾向で健康面が心配になった。
- ・ライブによく行くが、ライブが中止になってしまって、自宅でエンターテインメントが楽しめるようになった。
- ・家族でいる時間が増えたので、バドミントンをしたり家族の交流が増えて楽しかった。
- ・プライベートでは娘が関西にいるが、帰省ができなかったので会えなかった。また、アルバイトができなくなって生活が困った。仕事では、高齢者と接しているので、とても緊張して、今までにないくらい気を使った。
- ・ストレスは解消できていない。新幹線も乗れないので、旅行にもいけない。
- ・GoTo も使いたいが、不安。プレミアム商品券は使わせてもらっている。
- ・GoTo イートも使えていない。
- ・スーパーに食材を買いに行くとき、人が密集していて買いに行きづらかった。
- ・行きたいコンサートが中止になり、ストレスがたまってしまった。
- ・ウーバーイーツによって、今まで知らないお店を知ることができ、美味しいお店を見つけることが出来た。
- ・潔癖症なので、飲食店などがまめに消毒をするので、私にとっては有難い。
- ・息子が東京から帰って来たいと言っているが、祖母は帰って来ないと、家族間で少しギクシャクしている。
- ・身内が入院しても病院で面会が出来ないことが残念。
- ・自分的には、夫婦関係や家族間で絆が出来たのではないか。
- ・那須塩原市の自然の中で暮らしたいとライフスタイルの見直しで、子育て世代の移住相談が増えた。(実際に移住の実績あり)

○自治会・地域での活動

- ・公民館の利用が出来ない。活動したくともコロナ感染症が不安。どう工夫して活動できるかを考えて行動している。
- ・交流が少なくなってしまったが情報交換を行っている。
- ・課題共有を持ちたいがコロナ感染症が心配で集まりを自由に行えない。
- ・自治会役員のなり手不足で育成や支援策が必要。
- ・悩みを地域や周囲でサポートする体制を整備する事が必要だと思う。
- ・消防団の加入者がおらず、いつまでも退団出来ないのでは、解決策を整備してほしい。
- ・操法大会や通常点検で表彰の機会がなくなってしまったので、門前消防団のオリジナル表彰式を、飲食をしないなどのコロナ対策をとって表彰式を行うことができた。
- ・消防団の表彰式、点検が中止になり、部独自で表彰式を行う予定。(地域に回覧を回し、消防団を地域の人達に理解してもらう)
- ・自治会の役員をしているが、自治会の活動がほとんどできなかった。地域の皆さんから卓球や輪投げなどできないのは困るという話を聞いた。これからはコロナありきでの自治会運営を考えなければならないので、みなさんと話し合いをしている。
- ・人との接点を作れなくなっており、Zoom などを使った新しい生活様式の中で、自治会など接点を作れない方々をどう取り残さず救っていくかが課題。地域力が下がっていくのが心配。
- ・自治会活動が中止になってしまい、役員会などができず存在価値が問われる。

○前向きな提案

- ・生活様式制限が多くなったが、色々なことに目を向けることができる。
- ・自粛ではなく、対策とりながらできることは何かないか。
- ・オンライン飲み会で遠隔地にいる友人と会えたのは楽しいが、経済を回すのも必要ではないか。
- ・マラソンもマスクをしながら走るのかどうか。スポーツ用マスクがあるとよい。人とすれ違う時間を考えて走っている。
- ・規律を守る人が多くなったが、逆に息苦しくなっている人もいるのでは。

- ・パブリックビューリングでのイベント開催。コンサートやスポーツ観戦や地域行事等、オンラインでみんなが一つになって楽しめることができるというと思う。
- ・公民館にサテライト機能を整備していけば良いと思う。
- ・Wi-Fi 環境の整備、高齢者でもオンラインを出来る体制や環境を望む。
- ・公民館などの公共施設にネット環境整備が必要だと思う。市の新体制部署で市中のネット環境の必要性を検討してほしい。今の公共施設ではネット環境は不備がある。
- ・市では対策をしてイベントを行なってほしい。制限がたくさんある中だが、体を動かせる環境がほしい。
- ・家族でも消毒をすることを徹底している。旅行に行きたいが行ってない。家族で安全に旅行に行けるような補助があるといい。
- ・メディアの報道を正確に理解し、地域の人々との交流を深め、コロナ以前の時より強固な絆を作っていきたい。
- ・福祉関係者と地域住民が集い話し合い(西那須ヶアネット)が、オンラインになり参加者が増えた。また、新しい出会いも増え、新しい意見も聞けた。

○オンライン会議などの情報通信技術

- ・Zoomなどを活用していけば良いと思う。会場まで移動が無く便利だと思う。
- ・オンラインを活用するようになった。オンラインをチャレンジしている。
- ・オンラインを有効に使って行きたい。コミュニケーションツールが今後進んで行くと思う。
- ・リモートの方法を外部に分かりやすく発信する必要がある。情報弱者に配慮が必要になると思う。
- ・顔を確認出来る、オンラインミーティングはコミュニケーションが出来るため重要な武器にしていきたい。

○アフターコロナについて

- ・ワクチンが出来て今までの生活ができるようになっても以前に戻れないのではないかと思う。来年オリンピックが実施されるのかとか娘が来年修学旅行に行けるのかなど、不安は尽きない。
- ・ワクチン接種が始まった時にどういう優先順位で打ってもらえるのか気になる。
- ・将来、アフターコロナで高校生などが地元に残ってもらえるような市政運営をお願いしたい。

○その他

- ・行政の縦割りについて、いろんな課と横の連携が大切だ。縦割りだと所管じゃないという事で断られることが不便だ。
- ・水が出ない所に住んでいるので対策してほしい。
- ・総合相談窓口の話が出ていて、人が移動してしまうと話が通じないなどの弊害がある。例えば、引きこもりの方が心を開いてきたときに信用していた人が移動してしまうなど。
- ・自治会で見守り組織をつくっているが、市内に同組織は少ない。自治会長が単年で交代していく中で、毎回新しい組織をつくるので定着しない。

3 第16回議会報告会のまとめと考察

実施体制について

- 新型コロナウイルス感染症対策とし、Web 会議システム「Zoom」を使用し実施した。昼の部は広聴広報特別委員会と議員有志、夜の部は広聴広報特別委員会が行った。

広報活動について

- チラシの班回覧
- 各施設へのチラシ配布依頼
- 市広報及び議会だよりへの掲載
- みるメールによる周知
- 市議会 Facebook による周知
- 市の公式 LINE アカウントによる周知
- 各議員による周知

当日の進行について

意見交換の形式について

- ワールドカフェ形式で行い、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用して行った。

時間配分について

- 20 分のブレイクアウトルームを 3 回行った。

意見交換テーマについて

- 意見交換のテーマは、「コロナ禍における新しい生活」をメインテーマとし、幅広く意見を交換した。

アンケート結果について

参加者について

○参加者の属性は、昼の部に高校生（4校 16人：全体の 55%）が参加した。

Zoom での開催ということもあり、授業の一環として参加。

男女比は男性 44.8%、女性 55.2%。

高校生を除くと男女比は男性 61%、女性 39%。年齢は 40 代、50 代が多かったが、幅広い年代が参加した。

議会フォーラムの内容について

○今回 Zoom を使用して実施したが、操作が難しいと回答した人は少数であり、概ね好意的であった。ただし、「できれば直接会って話したほうが伝えたいことが伝えやすい」と口頭でのご意見があった。



考察

今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”は、新型コロナウイルス感染症対策として、議会報告は YouTube での動画配信、意見交換は Web 会議システム Zoom を活用し昼の部と夜の部の 2 回実施した。

当初は、Zoom を使用した初めてのオンライン開催ということから、インターネットなどの必要な環境が整っている市民しか参加することができないということや、Zoom の操作自体がわかりづらく、参加者が敬遠しがちになるのではなどの不安もあった。しかし、結果として昼の部、夜の部合わせて 29 名の参加をいただいた。

中でも昼の部については、授業中での開催であったにもかかわらず、各学校長の配慮で、市内 4 つの高等学校の生徒に参加していただくことができた。また、生徒自身も Web 会議に慣れたいとのことで、双方にメリットがあった。

意見交換は、那須塩原市議会で行っている議会フォーラム（市民と議会が意見を交換し合う）を基本とし、ワールドカフェ形式で行い、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用し、市民 3～4 人、議員が 2～3 名の少人数で行った。この方式については、市民から「ちょうどいい人数で話しやすかった」との意見があった。

一方で、参加者からは「顔を合わせての報告会のほうが話が伝わりやすい。そちらも実施してもらいたい」との従来型の意見交換を望む声も聞かれた。

今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”で今期最後の開催となった。今後の議会報告会及び意見交換会は、改選があるため、一年後の開催となることが予想される。どのような情勢になっているかは予測できないが、新たな体制でも、市民に対しての議会の報告の責務と、意見を交換できる体制は維持できるよう、あらゆる手法を駆使して実行してほしいとの引き継ぎをしていきたいと考えている。

今回も事務局には負担をかけたが、お陰でこのような新たな意見交換が開催できた。関係各位に感謝を申し上げて考察とする。

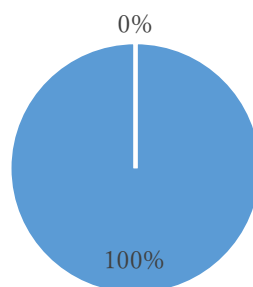
4 資料

アンケート結果

○Zoom のアンケート機能を使用して実施

問1 お住まい

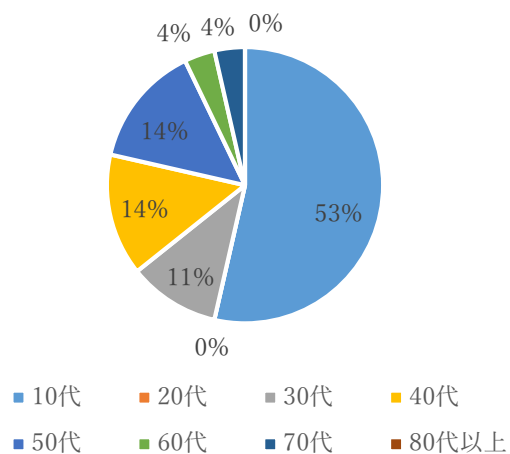
市内	29
市外	0



■ はい ■ いいえ

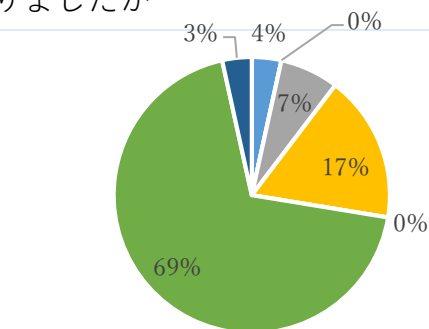
問2 年齢

10代	16
20代	0
30代	3
40代	4
50代	4
60代	1
70代	1
80代以上	0



問3 議会フォーラムは何でお知りになりましたか

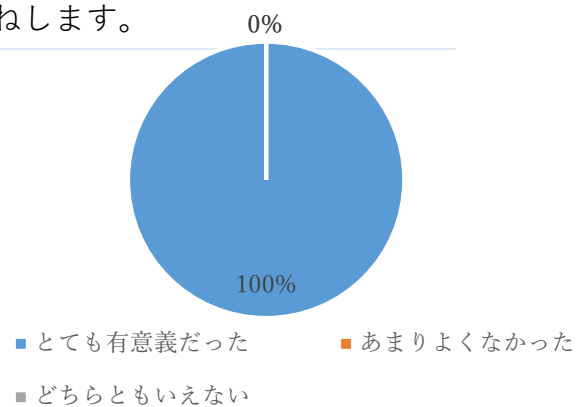
回覧板	1
議会だより	0
市広報	2
チラシ	3
ホームページ	0
議員、知人からの紹介	20
その他	1



■ 回覧板 ■ 議会だより
 ■ 市広報 ■ チラシ
 ■ ホームページ ■ 議員、知人からの紹介
 ■ その他

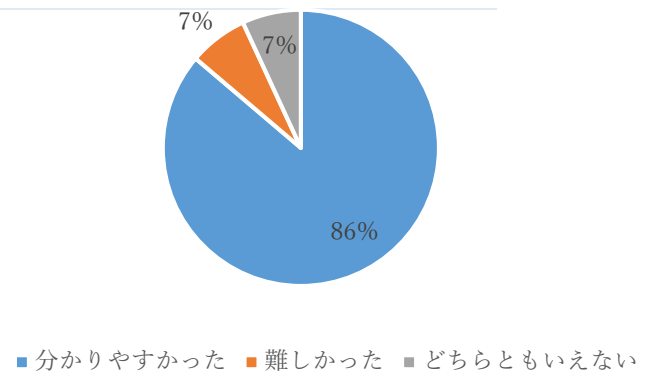
問4 今回の議会フォーラムについてお尋ねします。

とても有意義だった	29
あまりよくなかった	0
どちらともいえない	0



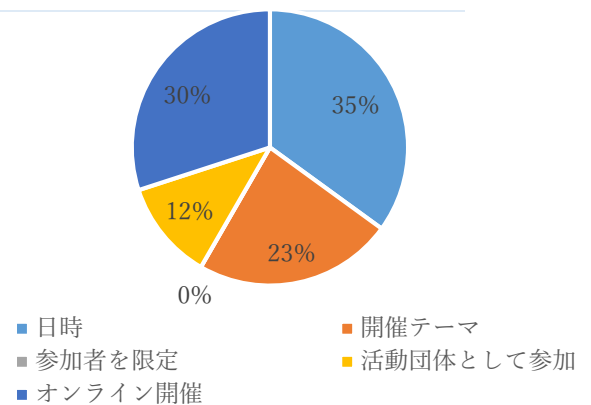
問5 Zoomを使用したことについて

分かりやすかった	25
難しかった	2
どちらともいえない	2



問6 今後も議会フォーラムや意見交換会に参加する条件についてお尋ねします。(複数回答)

日時	21
開催テーマ	14
参加者を限定	0
活動団体として参加	7
オンライン開催	18



○参加した感想

- ・楽しかった。
- ・コロナについて知れてよかった。
- ・このような形式で参加できて良かった。
- ・新庁舎建設について、その他で話したかった。
- ・一般の方の参加がもう少し増えるといいと思う。
- ・自分たちの意見を言える場ができて良かった。
- ・リモートを通して他の高校の人と交流ができたのが楽しかった。これを通して他の高校との意見交換ができたらイベントができると思った。後輩に繋いでいきたい。
- ・コロナについて深く考えることが出来て良かった。困っていることや気になっていることを話せて不安が解消された。
- ・議員と話をするのは2回目。普段聞けない貴重なことが聞けたので勉強になった。
- ・文明の進歩を感じた。
- ・意見交換会はいろいろな意見が聴けるので、客観的にみられるし、知らない情報も知ることができるので良かった。
- ・とても良い経験をさせてもらった。
- ・コロナで終わっちゃうのが残念でした。地域に関わるようなテーマで意見交換したかった。
- ・楽しかった、リアルで会うだけ対話じゃない。画面を通してでもつながれるのが嬉しい。
- ・Zoomを使ったのが初めてだったので最初緊張したが楽しかった。とても良い経験ができた。生徒会でも使えば今まで以上にできることが増えそう。
- ・初めて Zoom を使って他の学校の人や大人の人と会えてよかった。
- ・Zoom は使ったことがあったが、こういった話し合いは初めてだった。地域の人と話せたのがよかった。